

景観文化財学

文化財

No.	書名 / 論題	編著者	資料の解説 / コメント
78	掠奪されたメソポタミア	ローレンス・ロスフィールド著	アメリカなどが侵攻したイラク戦争。国立博物館の貴重な文化遺産はなぜ略奪されたのか。戦争の陰を明かし、文化遺産保護の教訓を示します。
79	イスラームと文化財	野口淳, 安倍雅史編	地域紛争が止まないイスラーム圏の諸国では、文化財もまた危機にさらされています。現地の文化財の実情と、保護・活用に尽力する取り組み。『文化遺産の保存と国際協力』はさらに全体的な考察。
80	世界遺産パルミラ破壊の現場から：シリア紛争と文化遺産	西藤清秀, 安倍雅史, 間舎裕生編	紛争で破壊されたパルミラ遺跡。文化遺産の現状をたどり、シリアと文化遺産の復興への課題を見つめます。『世界遺産を平和の砦に：武力紛争から文化を守るハーグ条約』は保護理念を示す。
81	文化財返還問題を考える：負の遺産を清算するために	五十嵐彰著	現在世界では、博物館が収蔵する資料の返還を求める動きが先住民やかつての植民地などで起きています。資料を巡る負の歴史について考えます。
82	アジアにおける文化遺産の保存と救済	シルクロード学研究センター	アジアの文化遺産の保護を議論するシンポジウム。アンコール遺跡を主に取り上げる。『文化協力における民族と国家』は国際的な文化遺産保護の報告。
83	文化遺産の保存と環境	石澤良昭編	文化遺産を具体的にどう保存し、周辺の環境や住民生活とすり合わせていくのか。アンコールの事例報告。
84	中東欧の文化遺産への招待：ポーランド・チェコ・旧東ドイツを歩く	四方田雅史, 加藤裕治編著	中世都市や炭鉱、工場、強制収容所跡など、中東欧の文化遺産を、歴史・社会的背景や観光との関わりと合わせて紹介。類書に『ソヴィエト・ロシアの聖なる景観：社会主義体制下の宗教文化財、ツーリズム、ナショナリズム』
85	消滅遺産：もう見られない世界の偉大な建造物	ナショナルジオグラフィック編	バーミヤンの石仏など、近年の争乱などで失われた文化遺産を紹介し、住民の、人類にとっての遺産保護を考える。類書に『人類の歴史を護れ：戦中・戦後における文化遺産の保護と国際協力』
86	文化財/文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護	俵木悟著	無形文化遺産すなわち民俗芸能は、人間生活とともに常に変化する。祭りや芸能がいかに文化財となるか、保護の意義や研究課題を示す。類書に『民俗文化財：保護行政の現場から』
87	無形文化遺産とは何か：ユネスコの無形文化遺産を新たな視点で解説する	七海ゆみ子著	無形文化遺産とは何でしょうか？登場の背景、条約のしくみなど、他の世界遺産と比べながら詳細に解説。
88	世界遺産：理想と現実のはざまで	中村俊介著	世界遺産をめぐる様々な問題から保存のあり方を考える。類書に『世界遺産が消えてゆく』、『世界遺産：ユネスコ事務局長は訴える』
89	人と環境と文化遺産：21世紀に何を伝えるか	網野善彦, 後藤宗俊, 飯沼賢司編	人間と文化財、自然環境の保存を問う。現代社会における文化遺産保護の日本や海外の例から課題を考えます。
90	世界文化遺産の思想	西村幸夫, 本中眞編	世界文化遺産の理念・歴史・制度を解説し、現場の課題や取り組みを紹介しています。類書に『世界遺産学を学ぶ人のために』
91	文化遺産はだれのものか：トルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護	田中英資著	過去の痕跡はどうやって、国や民族、あるいは人類の文化遺産となるのか。トルコの遺物をめぐる言説から、文化遺産概念を問い直す。
92	最新改正文化財保護法	文化財保護法研究会編著	文化的景観が新たに加わった2005年改正施行を受けた、文化財保護法を紹介。
93	文化財と近代日本	鈴木良, 高木博志編	陵墓、神話、戦争展示など、日本における文化財の位置づけを近代史の視点からとらえています。
94	コロニアリズムと文化財：近代日本と朝鮮から考える	荒井信一著	地域や民族の歴史を物語る文化財は誰のものか。近代のナショナリズムと支配や略奪の経緯をたどり、人類の遺産としてのあり方を考える。
95	近代日本の史蹟保存事業とアカデミズム	齋藤智志著	近代に文化財がどう認識され、顕彰されてきたか。歴史学や考古学が、ナショナリズムやアイデンティティ形成に寄与した実態を示します。

96	文化財の社会史：近現代史と伝統文化の変遷	森本和男 著	文化財が近代日本が成立していくなかで、どのように認識され、扱われてきたのかを探る。
97	文化財政策概論：文化遺産保護の新たな展開に向けて	川村恒明 監修・著； 根木昭, 和田勝彦 編著	文化財政策は保存と活用の両面で、新たな理念、枠組みの再構築を迫られています。政策面から「文化財保護」の実態を分析しています。
98	文化財保護の実務	児玉幸多, 仲野浩 編	各文化財の内容、指定の課題、保存活用の方法を関係者が内側から解説し、問題提起する。今も色あせない入門書。
99	よみがえる鉄道文化財：小さなアクションが守る大きな遺産	笹田昌宏 著	廃棄物として処分されかけた鉄道文化財が、市民の手で救い出され、守られた事例を紹介。
100	探訪ハンドブック	野呂肖生 執筆；石井進 監修	文化財を見学する時のガイド。1巻は文化財保護の概要や豆知識。続巻で考古学・寺社・町並み・城・庭園・石造物・仏像・陶磁器・古文書・史跡を網羅。
101	都市災害と文化財保護法制	久末弥生 著	火災をはじめとした災害に対し、法制度を軸に文化財保護の課題を検討しています。
102	法と文化：文化財保護への司法的挑戦	ホルヘ・サンチェス＝コルデロ 著；松浦芳枝 訳	メキシコで長く活躍する筆者による評論。文化、過去は誰に帰属するのか、文化財の破壊や犯罪行為、文化政策まで広範に論じています。
103	社会学で読み解く文化遺産：新しい研究の視点とフィールド	木村至聖, 森久聡 編	モノが遺産、文化財となる現象に着目。社会学から制度や思想、保護のあり方を考えます。
104	京大よ、還せ：琉球人遺骨は訴える	松島泰勝, 山内小夜子 編著	琉球民族遺骨返還請求訴訟が提起する問題。研究者の奥底に残る差別と植民地主義は世界共通の課題です。
105	開発事業と埋蔵文化財：伊場遺跡をめぐる開発・保存運動・訴訟	荒木田岳 著	史跡指定解除という異例の経過をたどった伊場遺跡。当事者の記録や証言から紐解き、裁判の果たした役割を再考する。
106	雲仙普賢岳被災民家跡を発掘する	大浦一志 著	雲仙普賢岳噴火で火砕流に覆われた現地を定点観測し、被災家屋を発掘するプロジェクトの記録。
107	平家と福原京の時代	歴史資料ネットワーク 編	平安時代、兵庫に福原京があったと言われる。平清盛たちはどこに住まい、何を行っていたか。福原京の時代を考古学的に検証。
108	ものづくりとくらしの日本史：復元模型でよくわかる	石井進 編	前近代日本の衣食住や生業の様相を、豊富な資料と復元模型で紹介します。
109	東日本大震災と遺跡に学ぶ津波防災	斎野裕彦 著	津波は古来、日本列島を襲ってきた。考古学調査の成果をもとに、地域の防災を学ぶ。類書に『津波災害痕跡の考古学的研究』
110	文化行政50年の軌跡と文化政策	中岡司 著	文化庁の50年に渡る行政政策を振り返り、観光政策との連動など近年の動向までを整理する。
111	なぜ人類は戦争で文化破壊を繰り返すのか	ロバート・ベヴァン 著；駒木令 訳	戦争で破壊された世界中の建造物などをたどり、文化遺産やその記憶を残していく意味を問う。
112	ヨーロッパ文化遺産研究の最前線	シヨンコイ・ガーボル [ほか] 著・訳	ヨーロッパにおける文化遺産の現状、理論的背景などを解説する。